

【助成事業の名称: 地域コミュニティ創生によるストリートイベント「ウエストサイドフェス」】

ポイント



武士が始めた商店街で、プロスポーツイベントや古着市、ドローンレースで新たな客層を開拓

大政奉還により誕生した歴史ある商店街。若手組合員等によるイベント実行委員会が中心となり、地元のプロスポーツ団体や大学・高校等との連携を強化して積極的な集客・販促事業を展開。古着屋さんによるフリマや、「商店街ドローンレース」などの新機軸で新たな客層の開拓に力を入れている。商店街のコミュニティ施設「奉還町りぶら」も地域ボランティアや学生たちに開放され、岡山駅西口地域の活性化の拠点として重要な役割を果たしている。

商店街情報

所在地: 岡山市北区奉還町2丁目13番23号
 商店街の類型: 地域型商店街
 岡山市地域人口: 708,442人 329,509世帯(岡山市 2019年5月末現在)
 組合員数: 85名(2019年6月現在)
 (主な業種構成: 衣料品店、食料品店、飲食店、生活雑貨店、仏具店、玩具店、文化共有施設、理美容店など)
 電話: 086-252-1491 FAX: 086-252-1466
 URL: <http://www.houkancho.com/>



商店街の入り口

商店街の概要と近年の環境変化

駅前広場の整備が完了したJR岡山駅西口から徒歩5分程の位置にある地域型商店街。東西に約1kmの街区を有し、中心部の400mは全蓋型のアーケードが設置されている。

周辺は住宅とオフィスが混在し、地域住民が生活必需品を購入するほか会社員の飲食店利用も多い。近隣には複数の大学、専門学校、高校等があり、学生たちの通学路となっているほか、街から10分程の場所にはサッカー等のスポーツイベントが行われる岡山県総合グラウンドがあり、スポーツ観戦で商店街を通る人も多い。

当商店街の名称は、大政奉還で失職した池田藩の武士が奉還金を元手に商売を始めたことに由来する。商店街はかつての山陽道に面しており、今でいうところのロードサイド型でスタート。戦時中は、岡山大空襲により一面焼け野原となったが、復興に努め、昭和30年代頃は駅に最も近い商店街として地方からの買い物客が多く訪れ、岡山で一番活気のある商店街として賑わった。その後、ナショナルチェーンのスーパーやデパートの進出、県庁の移転等で人の流れが変わり一時ほどの盛況は望めなくなったが、下町情緒溢れる地域密着型商店街として住民の生活に寄与している。

商店街の運営組織は、昭和45年に任意組織を振興組合として法人化。平成4年に商店街モール化事業として御影石の石畳による歩道の整備とアーケードを補修、さらに平成11年には、商店街活動の拠点として交流施設「りぶら」を建設。鉄筋4階建てで会議室や小ホールがあり、学生や福祉関係者は無料で利用できるほか、玄関先に設置された高校生の制作による電動式の社が目目を引く。

現在組合員は85名で、物販に代わって飲食関係が増加する傾向



商店街では庶民的な食堂や日用雑貨が揃う

にあるほか、生鮮三品がないことが一つの課題となっている。

一方、平成26年12月、岡山駅南口の旧林原の跡地に床面積25万㎡、350の専門店を有するイオンモールが開店。年間2,000万人の集客を実現し、市等の調査結果では市内の商業活動に少なからぬ影響を与えている。当商店街では、これらの商業施設と連携しつつ、地域密着の商店街として、「奉還町100円商店街」「土曜夜市」「アームレスリング大会」「古着屋さんのフリマ」など毎月のように集客イベントを開催しており、特に最近は、新たな話題作りとして「商店街ドローンレース」を開催し、駅の西口地域の活性化に取り組んでいる。



「奉還町りぶら」前でイベント事業の開会式

助成事業の概要とその成果

当商店街では、毎月のようにイベント活動を実施し、集客や地域コミュニティへの貢献に努めている。しかし、店主の高齢化による組織活動の難しさや空き店舗の問題等があり、今後は若手の組合員や外部の若者との連携を一層強化していく必要性を感じていた。こうした折、助成事業の存在を知り、地域コミュニティとの連携強化を目指したストリートイベントを実施した。運営に当たっては、近隣の大学や高校等からの協力を得たほか、岡山コンベンションセンター、岡山国際交流センター等にPR面での協力を頂いた。

●ウエストサイドミュージックフェス

地元岡山出身のミュージシャン数組によるストリートライブと地元高校生のプラスバンドの演奏で、雨にも拘わらず大勢の参加で賑わった。

●ウエストサイドコスプレフェス

約50名のコスプレイヤーが商店街に集結し、商店街を舞台にパレードや来街者と一緒に写真撮影するなど盛り上った。コミュニティ施設(奉還町りぶら)では、同人誌の販売、アニソンライブ、コスプレマニアミーティングを開催。割引特典サービスを実施した飲食店では若者が集まり、ユニークなイベントが地域住民にも好評だった。

●かぼちゃのランタン設置

10月の1ヵ月間、90の店舗の店頭「かぼちゃのランタン」を飾って彩りを添え、毎年開催している「ハロウィンフェスティバルin奉還町」をさらに盛り上げた。

●ウエストサイドフードフェス

「備前岡山えんじやないか大誓文払い」と同日に開催し、ファーストフードやスイーツを商店街内で楽しむことができる企画としてキッチンカー(移動販売車)7店舗を出店。

ファーストフードやスイーツ店が少ない商店街に若者が足を運ぶきっかけとなり、ハワイのスイーツ「マラサダ」、搾りたて果物を使ったスムージー、鉄板で焼いたパン生地で包んだホットドック等を目当てにした来街者で賑わった。集客目標500名を大幅に上回る1,000名の参加があった。

< 助成事業の成果 >

助成事業によるイベント等を実施したことにより、これまで商店街と縁がなかった若年層や遠方からの来街が増加している模様で、売上にも好影響が見受けられた。

また、事業の実施を通じて近隣の大学生や高校生等との連携が強化され、学生や地域スポーツ団体から商店街との連携事業の提案が増えている。学生や地域団体は、商店街を自己表現や発表の場として捉えており、こうした連携が活性化への良い循環を生んでおり、これにはコミュニティ施設「りぶら」の存在も大きく、文字通り地域の交流拠点としての機能を果たしている。



助成事業以降の商店街活動

平成26年12月、岡山駅の南にイオンモールが開店し、市内の商業環境は大きな変化を迎えた。こうした中で、当商店街では、西口にある公共機関等との連携による歩いて楽しい街づくりや、大型店との連携による地域共通カードの運営、複数イベントの同時開催による広範囲な地域からの集客促進等を進めている。

また、助成事業を通じて、学生や地域スポーツ団体との連携が強化されたほか、若手組合員を中心とするイベント実行委員会が組織され、古着マーケットやドローンレース等の話題性のある事業が可能となった。

①歩いて楽しい街づくりを目指して、岡山駅西口の活性化を推進

岡山駅西口にある「コンベンションセンター」「国際交流会館」等の公的機関等との連携により、地域活性化の中核的役割を担っており、これらの施設を訪れる人々が“買い物とランチを楽しめる”街を目指している。また、インバウンド対策の強化も検討中である。

②新たなイベント事業による集客

＜アムレスリング大会＞

奉還町はアムレスリングの聖地としての顔を持っており、世界チャンピオンらを迎えて令和元年には第10回目のイベントを開催。小学生・一般女性の部もあり家族で楽しめるイベントとして来街者を集めている。

＜古着屋Love!フリマin奉還町＞

全国から約40店舗の古着屋が参加する古着市を開催。商店街にある古着屋の組合員が中心となってPRを進め、1万人を超える来街者が商店街を訪れて、広い地域から新規客を呼び込むことに成功。定期的な開催に発展している。

＜ドローンレースの開催＞

日本初、商店街でドローンの操縦技術を競うタイムアタックレースを繰り広げた。商店街に事務所を有するドローンの協会が中心となって企画したもので、約30名のドローンレーサーの白熱した様子が、マスコミ各紙で取り上げられて大きな話題となった。

③スポーツ団体等との連携による地域活性化

商店街では、プロスポーツとの連携による活性化を進めており、「SPOC」という組合員、スポーツ関係者、学生等で構成される組織を中心に地元のファジアーノ岡山(サッカー)、岡山シーガル(バレー)、岡山リベッツ(卓球)等の応援を展開。アーケードにのぼりやタペストリーを設置するほか、りぶらではパブリックビューイングを定期開催、SNSで試合結果を流すなど街を挙げての応援を行っている。

④学生や児童との連携による協働事業の継続

＜奉還百縁日(奉還町100円商店街)＞

地元商業高校生が商店街キャラクター「小判君」を御祭神とした、音に反応する移動型ハイテク神社を製作。この神社の縁日として100円均一の露店市を定期的な開催しており、子供は1回100円の縁日ゲームがあり、親子連れで商店街中が賑わった。

＜土曜夜市＞

7月の毎週土曜、出店と浴衣を着た人々で商店街が埋め尽くされる夏の風物詩的なイベント。岡山県内17の大学・短大生らがエコをテーマにブース出展をする「エコナイト」のイベントも同時開催している。

＜ハロウィンフェスティバルin奉還町＞

仮装した子供達約200名が参加するハロウィンイベントを地元の専門学校、高校生が企画・運営している。ファッションショー、スタンプラリーやゲーム等、様々な催し物でイベントを盛り上げている。

⑤イベントで地域団体と結束を強化

＜WEST SIDE MIXER 奉還町アート商店街＞

8月末、商店街をギャラリーとして、人と作品とお店が一体となるアートイベントを開催。20年続く事業で40を超えるグループがワークショップや路上パフォーマンス、アート作品の展示等を行い、文字通りアートがお店とお客様を繋ぐコミュニケーションツールとしている。



自治体による活性化支援等

岡山市

人口70万人を数える岡山市は、タワーマンションの建設等で全国でも数少ない人口の増加傾向にある都市で、これに伴い産業活動も活発である。特に、平成26年12月、岡山駅の南に中四国最大規模の売り場面積を有するイオンモールが開店したことで、県内だけでなく高松市や福山市などからの来客もあり、飛躍的に商圈が拡大して地域商業に大きなインパクトを与えている。また、従来は県庁に近い表町等に商業の重心があったが、市の調査結果では、近隣商業施設の再開発と相まって徐々に岡山駅近辺への人の流れが増えている状況にある。

現在岡山駅の周辺には6つの商店街があり、店主の高齢化と後継者難、空き店舗の増加等様々な課題を抱えているが、イオンの集客効果の影響を受けて、業況の改善がみられる部分も出ている。また、市商連が中心となって「備前岡山ええじゃないか大誓文払い」「ゴールデンフェスタ岡山」「浪漫テック奉還祭」などの大型イベントを実施しており、集客促進に効果を挙げている。

こうした商店街や中小事業者の支援策として、現在岡山市では次のような事業を実施している。商店街振興組合等を対象とする助成事業では、研修講師の招聘等を支援する「商店街活性化研修事業」、商店街自らが行う活性化計画策定を支援する「商店街活性化計画策定・調査事業」、空き店舗を活用したチャレンジショップやアンテナショップの実施及び店舗の改装費等を助成する「空き店舗対策事業」、アーケードや街路灯、駐車場等の整備に要する経費を助成する「基盤整備事業」、商店街のオリジナル商品の開発や販促を支援する「個性創出事業」等があり、いずれも必要経費の2/3を助成している。また、令和元年度から市民の安全等を考慮して、老朽化したアーケードの撤去に必要な経費の4/5を助成する「商店街まちづくりリニューアル支援事業」を実施している。

奉還町商店街については、商店街活動が非常に積極的で、地域連携の要としての役割を担ってもらっており、今後の街づくりの進展に大いに期待している。

商店街の今後の戦略

歩いて楽しい商店街を目指し、
若者が集まれる場所をつくる

近年の商店街は、全国的に見ても量販店やネット通販に購買力が流れてどこも厳しい状況にあり、これに加えて店主の高齢化と後継者難から空き店舗が増加している。当商店街においても、高齢化による積極性の不足や業種的には生鮮三品がないほか若者や学生向けの店が少ないなどの課題を抱えており、遠方からの来街に訴求力のある店舗の誘致に力を入れている。特に、今後の活性化のためには若者との連携が不可欠で、地域を愛する人が2~3人でもいれば、新たなネットワークが構築され人を集めることが可能であると考えている。実際、古着や、オープンカフェ、スイーツ店、巻き爪治療サロンなどが開店してくれており、古着屋さんのフリマではSNS活用のPRで全国から1万人を超える来街があった。

今後は、高齢化社会が進む中で地域に必要とされる店をどう確保していくかとともに、西口地域全体が活性化する取り組みが重要で、現在進めているスポーツとの連携による活性化策やアームレスリングの聖地としての活動、古着フリマの拡大、さらに注目されているドローンレースなどの新機軸の充実を図り、売り上げに結びつけていきたい。また、学生やスポーツ関係者が積極的に参加してくれるネットワークを維持するとともに、商店街の運営も若手に引き継いでいってもらいたいと考えている。



～ 仕掛け人 ～

奉還町商店街振興組合理事長 岸 卓志



商店街キャラクター「小判君」

取材を通じて明らかになったこと

岡山駅南口へのイオンモールの出店等で商業環境が大きく変化する中で、当商店街ではこれらを好機と捉え、駅の西口地域一帯の活性化策を積極的に展開している。また、ほぼ毎月のように集客や販促のためのイベント事業を実施しており、理事長以下役員の強力なリーダーシップと関係者の努力により商店街事業の運営に関する大きな資産が形成されている。また、コミュニティ施設の「りぶら」も活性化への拠点として重要な役割を果たしていることが注目される。

スポーツ関連イベント、古着屋さんのフリマやドローンレースなどの新機軸は人々のネットワークに負うところが大きく、商店街活動に必要な様々な要素を長年かけて培ってきたことが今日の活動に繋がっているといえる。街の活性化には、積極性、ハード面の施設、ソフト面での人の輪が不可欠であることを改めて認識させられる取り組み事例である。